



カナダツガE120
無垢材エンジニアリングウッド

木材を知る人が選ぶ、国土交通省より強度指定されたカナダツガE120とE120 F330。カナダ西海岸地寒冷多雨な気候で育つ産地限定材です。この高強度天然無垢材カナダツガは日本の木材住宅に最適な構造用木材です。



資料請求受付中!

資料の御請求は、貴社名、御氏名、役職、御住所、電話番号、FAX番号、必要部数を下記のFAXにて受付中

カナダツガ・パートナー協会

〒105-0001 港区虎門3-8-27 巴町アネックス2号館9階

TEL 03-5401-0536 FAX 03-5401-0538

<http://canadatsuga.org/>



CANADA TSUGA
E120 & E120-F330





木村木材工業(株) (埼玉県北本市)



今年の夏から厚さ別の対応に切り替えた



平積みと異なり引き出すスペースが必要だが取り出しやすくなる

厚さ別の対応で生産効率UP

カナダツガの品質チェック

カナダツガを中心としたムク造作材、注文材の製材で知られる木村木材工業(株) (埼玉県 木村司社長)。ムク造作材の製材では全国有数の規模を誇る。同社では今夏から節電対応と生産効率の向上を図るため、材料置き場の大移動を行った。従来の幅別対応から厚さ別の対応に切り替えるためだ。

きっかけは作業員の一人から出た提案だった。そもそも製材では幅別の平積みが常識である。幅別対応は邸別にまとめる上で都合が良い。ところがこの保管方法に異を唱える社員がいた。副主任の関根さん、入社5年目の作業員である(上写真)。

「幅別の対応では、自分の扱う幅以下でしか利用できないものの場合、そこで切ることが多く、短尺材が多くできてしまいます。しかし、厚さ別に対応することにより、より長尺での利用が可能になります」

今までの保管の仕方では、古いものが下に配されてしまうので、古いものが利用しにくい。そこで本棚のような収納方法とすることで、使いたい材料を取り出しやすくなる。関根さんの意見に木村司社長も納得した。同社では工場見学の際に各部門の作業員が説明できるようにするなど、現場を熟知した社員の自発性を重視している。さっ

製材～製品化までの工程

鴻巣ランバーターミナル本店



↓ 50℃で10日～2週間の低温乾燥



製材



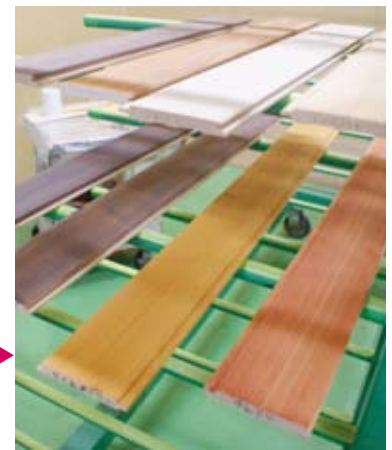
船で運ばれてきたフリッチ（原盤）



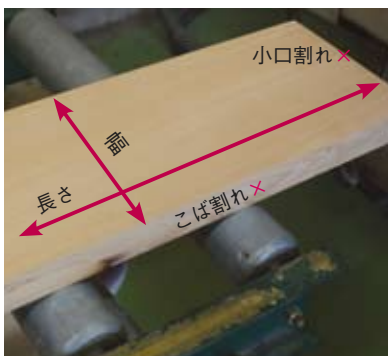
厚さ別でキズ等をチェックして分類



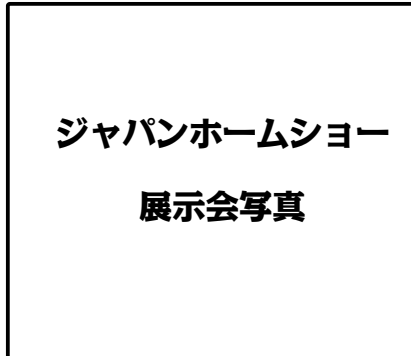
モルダー加工（上）とサンダーがけ（下）



自然塗料による塗装



長さを落とさないで幅を詰める



ジャパンホームショーで展示された羽目板とルーバー



そく厚さ別対応のために木製ラックを製造し、数日をかけて製造ラインの変更を行った。

5年前まではマンション内壁用にウレタン塗装の塗りつぶしが多かったカナダツガ。近年は工務店の要望により自然塗料の要望が高まっている。ムク材として木目の美しさを生かすため、変色、アオ、木目の良し悪し、シブなどのチェックのほか、工期に間に合わせるための対応がますます重要になりつつある。

キズ等のあった際の再加工で重要なことは、長さを落とさないで幅を詰めるという対応だ。木口割れは駄目だが、こぼ割れであれば幅方向で製材できる。長さで落とすと端材は造作材としての利用が難しいが、幅で落とせば別寸法で利用できる。

「割れを処理するのに困っていましたが、厚さ別により使用できる幅の自由度が高くなりました」と関根さんも満足した様子だった。

フリッチ（原盤）で輸入されたカナダツガは、50℃で10日～2週間の低温乾燥した後、長さ別で厳選される。今年9月のジャパンホームショーで展示された羽目板とルーバーも木材工業で製造された製品である。

2階リビング 造作材で多いのはカナダツガ。今回は通常の4倍の材積4㎡



所在地：東京都大田区中央
 敷地面積：16坪半
 床面積：80.04㎡（24.25坪）
 設計・施工：株式会社（東京大田区）
 構法：木造地下室付き2階建
 参考価格：約6000万円（土地代込）



16坪半で4人家族の家 こだわり造作工事で洋室を美しく

社長の自宅兼モデルハウス。16坪半の土地に4人家族の家を建てるといふ想定でモデルハウスを建設した。地下室付きで延べ床面積24坪（80・04㎡）。これで何とか4人家族が住める。

設計・施工は創建舎（東京路大田区中里一雄社長）。売上規模は年間9億円。うちリフォームは2億。新築は年間20棟で7億円の規模だ。社員は24名でうち大工は9名。同社の特色は大工を社員に育てようという意志が明確であることだ。造作工事の手間は一切惜しまない。

工事は昨年末から開始して6月末に完成。木工事は200人工で2カ月半かかった。今回はモデルハウスなので家具製作に力を入れており、通常はこの規模だと120工ほどだという。都内で戸建住宅を建設すると難しい事情も出てくる。狭小地の現場ではスペースがないため材料の移動だけで半日かかる時もある。建築材料は保管しておくよりも、捨てる方が安い位なのでストックヤードを設けることができる。敷地・道路の狭さ、トラックの搬入スペース、駐車場スペースの確保をクリアしながら施工が進められた。

構造は強度・含水率がしっかりした紀州産ヒノキ・スギを採用。製材は山長（和歌山県田辺市）で機械等級によつ



2階の地震の揺れに強い枠材の納まり (左・下)
階段は踏み板 35mmのカナダツガ。蹴込みのない
ストリップ 踏み板の納まりに注目 (右)



ポイント1

大工の手仕事 が伝わる洋室

窓枠と一体化した収納デザイン
(左) 構造材には樹齢60年の紀州
産スギ・ヒノキ。桁には目透かし
を入れてきれいに納める (下)



框と組子が同寸法の吉村障子
(左) CDラックのブレース貫通
箇所。天板を割いてブレースを
つけてまた張り合わせている。
継ぎ目が見えない (下)



て格付けされた樹齢60年のヒノキ・スギを用いている。

木のぬくもり活かした内装

造作工事ではデザインを重視して国産材のみならず世界中の優れた木材を用いている。床は3種類。地下はアカマツ、1階ヒノキ、2階は樺桜、2階天井と窓枠はカナダツガ、収納はカナダツガとバーチ、家具はホワイトオーク。浴室壁面はサワラ、浴室扉はヒバ。

中里社長によると大工工事は洋室を美しく見せるセンスと技能が特に重要だという。和室は洋室に比べると決まったルールがあり、簡単にそれらしい雰囲気を出すことができるからだ。一般的な大工のセンスは丈夫で長持ちがモットーなので材料が大きくなり、枠や見切りが太くなる傾向がある。美しく見せるには設計のディテールが必要なのでテーブル一つ、椅子一つでも図面を引いて大工の感性を磨いていくことが欠かせない。その一方で施工の標準化も行っており、目透かしを入れてきれいに納める施工を標準仕様としている。

防湿対策が万全の地下室



ポイント2

地下室の湿気対策



1階の洋室(上) 1階のサワラを張った浴室(下)



地下室の趣味室と寝室。コンクリートには「ノン結露」を塗っており、壁の内側は全て空気を通る(上・上右)ドライエリアの光が差し込む地階(左)地下室にも床下を設けている。強制循環排気を行っており、万が一、水が出ても流せるガルバリウムの樋がついている(下)



都内のこうした地域だと土地共で6000万円以内の注文住宅を希望する施主が多い。建ぺい率50、容積率100。第1種低層専用住宅地域で住環境に優れているが、3階建を建てる事ができない。こうした土地は売りにくいので相場よりも割安で入手。その分を地下室の工事にあてている。

地下室は、寝室と趣味室をもうけている。湿気があると思われがちな地下室を寝室にしていることで施主にとっても安心感がある。近年はインターネットで事前に情報を調べて相談にくる施主が多い。地下室は結露の事故が多いことを聞き知っている人もいる。

今回の地下室は厳しい地質条件で施工が行われた。ボーリングで水位を図ったところ、GL1300mmと地下1.5mに水脈があり、海拔12mの地形としては地下水が高いことが分かった。山留めはH鋼と矢板の杭工法もあるが、地下水を排出する際に近隣の不動沈下が起きる可能性もある。そこで河川などで用いるシートパイル工法を採用。地下掘削回りにシートパイルを打設して山留め工事を行った。地下室は10坪ほどで1000万円と上階の2〜3割増の価格。同社では地下室工事を専門業者には丸投げすることはせず、ダム防水の技術を採用入れて自社管理でノウハウを育てている。